デジタル教科書指導案／地理的分野

1．題材　p.260-261　稲作と畑作に対する人々の工夫や努力

2．目標　(1)　東北地方の冷涼な気候に対応した、稲作と畑作の工夫について理解できる。

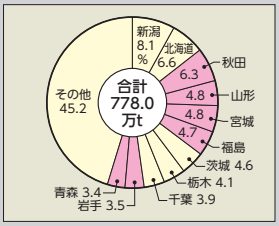
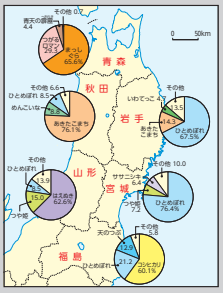
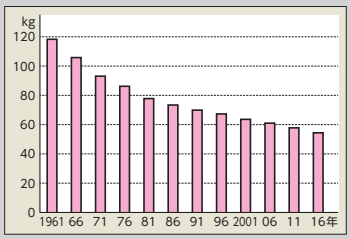
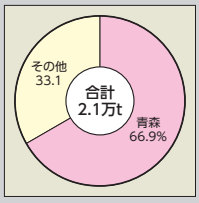
(2)　東北地方で銘柄米の開発が行われてきた理由を、減反政策との関わりから考察できる。

3．章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・東北地方で米の生産が盛んな理由を、東北地方の自然環境と栽培の工夫から理解している。
思考・判断・表現	・東北地方で銘柄米の開発が行われてきた理由を、日本の米の消費量の減少に伴う減反政策と産地間の競争から考察している。

4．指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点（○）・指導のポイント（◆）
導入	1．「やませによる霧が立ちこめる水田と『雨ニモマケズ』の一節」の写真と詩を題材にし、本時の課題をつかむ。 2．東北地方が冷害になる理由を予想し、学習課題への見通しを持つ。	 p.260 1 「雨ニモマケズ」は、どのような状況を表現しているのだろうか。 東北地方が冷害になることがある理由を予想してみよう。	○　宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩の意味を考えさせながら、本時への導入を図る。 ○　この詩は、昭和6年の東北地方の大凶作の年に書かれたと言われていることを補足する。 ○　東北地方が冷害になる理由を予想させる。 ○　「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
	学習課題：東北地方の人々は、冷涼な気候の下で農業を発展させるために、どのような工夫や努力を行ってきたのだろうか。		
展開	3．やませと米の不作について、1993年の例から理解する。	 p.260 2 冷害をもたらす北東からの冷たい風を何といいますか。 東北地方の冷害の地域的な特徴をまとめてみよう。	○　1993年の冷害の状況をつかませる。 ◆　北東からの冷たい「やませ」が冷害の要因になっていることを理解させる。 ◆　東北地方の太平洋側の北部ほど冷害の被害を受けやすいことに気付かせる。

展開	4．東北各県の米の生産量が多い理由を考える。	 東北地方の米の生産は全国の何％を占めているのだろうか。 p.260 3 （例）・秋田平野や庄内平野、仙台平野などの広い平野が多いため。 ・豊富な雪どけ水を稲作に利用できるため。 ・冷害に強い品種を開発し、栽培しているため。 ・水田に深く水を張ったり、冷害の警戒を伝える情報システムを利用したりする対策を行っているため。 冷害が発生やすい東北地方で米の生産が盛んなのはなぜだろうか。	○　全国の米の生産量のうち、東北地方の占める割合を読み取らせる。 ○　学習プリントを活用し、東北地方で米の生産が盛んな理由をまとめさせる。 ◆　東北地方は、平野が多く豊富な雪どけ水を稲作に利用できるなど、稲作に適している面もあることを理解させ、栽培にさまざまな工夫をしてきたことにも気付かせる。
	5．1970年代以降の減反政策や、銘柄米の開発の経緯について理解する。	 p.261 4  「米の年間１人あたりの消費量の変化」 銘柄米の生産に力を入れてきたのはなぜだろうか。	○　減反政策が行われるようになった理由を日本人の米の消費の変化から考えさせる。 ◆米の消費が減少するなか、消費者に喜ばれ、産地間の競争に勝ち抜くためにおいしくて冷害に強い米として「ひとめぼれ」などの銘柄米が開発されたことを理解させる。
	6．やませの影響を受けやすい地域の食文化とその地域の農業の特色を理解する。	 p.254 2 太平洋側の地域では、そばや小麦の食文化がみられるのはなぜだろうか。 p.261 6  「にんにくの生産量」 場所：三本木原（青森県）／遠野市（岩手県）／北上山地（岩手県） 作物：にんにく　ごぼう　など／ホップ　など／酪農　など やませの影響を受けやすい太平洋側の地域では、どのような農業が行われているのだろうか。	○　東北の太平洋側や内陸の地域には、そばや小麦の食文化がみられる理由を考えさせる。 ◆　冷害に見舞われやすいため、寒さに強いそばや小麦の栽培が行われていたことに気付かせる。 ○　学習プリントを活用し、冷涼な気候に対応した農業や農作物をまとめさせる。 ◆　地図帳を活用し、三本木原の畑作や遠野市のホップ、北上高地での酪農などを地図から読み取らせる。
整理	7．本時のまとめをする。	**東北地方の農家が行っている稲作の工夫について、「やませ」、「冷害」、「品種」の語句を使って説明しよう。**	◆　東北地方では、冷害に強く味の良い品種の開発や栽培方法の工夫などが行われてきたことを説明できたか確認する。
	8．学習課題への振り返りの活動を行う。	「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。	○「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。